

石垣島和牛改良組合女性部の事後調査報告書

全国農業改良普及支援協会 専門調査員 関澤音朗

1. 経営発表後の活動と成果

(1) 組織結成から経営発表までの取り組み

石垣島和牛改良組合女性部（以下女性部）は、全国肉用牛協会（現全国肉用牛振興基金協会）主催の平成14年度肉用牛経営発表会に「和牛女性部の”輪と和”が畜産経営を変革する」と題して発表し、組織活動部門で農林水産大臣賞を受賞した事例である。女性部は、県外先進地視察研修を通して彼我の飼養管理技術や女性の経営に取り組む姿勢の違いを痛感した繁殖肉用牛農家の10名の女性が「牛飼いととしての誇りを持ち、良い牛を育て経営の安定に資すること」を目的に、平成2年に石垣島和牛改良組合の下部組織として結成したものである。女性部の主要な活動は学習活動（視察研修、現地検討会、技術向上講習会等）で、石垣島和牛改良組合はもとより農業改良普及センター、家畜衛生保健所等の関係機関と連携し取り組んできた。学習活動の中でも中心的な活動である技術向上講習会では部員の抱えている課題を踏まえてテーマを設定し、繁殖肉用牛飼養に必要な技術力、経営管理能力の向上を図ってきた。その結果、部員は従来補助的従事から主体的に経営に参画するようになった。そして、技術力・経営管理能力向上を裏付けとして経営に参画する中で、新しい時代の向かって広く社会に参画しようとの意味から、平成8年に「婦人部」から「女性部」へと名称を変更した。同時に「石垣市女性ネットワーク会議」への加入（平成7年）、「八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会」（当該女性部及びJ A女性部、葉たばこ女性部、漁協女性部、生活研究会の農・漁業関係女性組織5つで構成）を結成・加入し（平成8年）、地域の女性組織との幅広い交流を通して、女性の地位向上や社会参画の促進に取り組んできた。以上のような活動の結果、部員数は結成時10名であったが平成8年には80名（石垣市肉用牛飼養農家の約12%）にまで増加し、また部員の80%程度が経営主として、あるいは経営主と同等の立場で経営に携わるようになってきた。そして女性の経営参画は部員のみならず石垣島和牛改良組合全体に生産意欲の高まりをもたらし、石垣市の肉用牛飼養農家数は平成2年の453戸が平成5年には701戸に増加し、その後減少に転じたが平成14年当時で平成2年の1.3倍にあたる598戸を数え、1戸当たり平均飼養頭数は平成2年の1.9倍、全国平均を13頭上回る39.9頭に達した（表1）。同時に、平成14年の子牛出荷頭数（八重山家畜市場）は2年の2.2倍にあたる7.3千頭で、全国の2%のシェアを占め全国有数の和子牛産地に成長した。

(2) 経営発表後の取り組みと成果

経営発表後の動向をみると、部員数は高齢化による肉牛飼養農家数の減少を反映して64名に減少している。しかし、市の肉用牛飼養農家に占める女性部員比率は約12%で、平成8年水準を維持している。また女性部活動に共鳴し新規に加入する者も少なくなく、発表後15名が加入し、うち4名は新たに肉用牛を飼養した女性で、女性部が肉用牛飼養の担い手育成に重要な役割を果たしていることが伺える。

女性部の中心的な活動である学習活動についてみると、技術向上講習会は、平成18年度には8月に「家畜共済制度について」、「分娩前後の管理について」、9月「成人病につい

表1 石垣市における繁殖肉用牛飼養の状況

単位：戸、頭

項目	年次 (平成)	石垣市				全国			
		戸数	頭数	1戸当 り頭数	子牛出荷 頭数	戸数	頭数	1戸当 り頭数	子牛出荷 頭数
実数	2年	453	9,472	20.9	3,310	232,200	2,702	11.6	—
	14年	598	23,853	39.9	7,315	104,200	2,838	27.2	370,708
	15年	600	24,848	41.4	7,426	98,100	2,805	28.6	366,797
	16年	572	23,110	40.4	7,186	93,900	2,788	29.7	357,990
	17年	563	22,826	40.5	7,180	89,600	2,747	30.7	361,549
	18年	547	22,777	41.6	7,173	85,600	2,755	32.2	364,401
推移	2年	75.8	39.7	61.3	45.2	222.8	95.2	42.7	—
	14年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	(2.0)
	15年	100.3	104.2	98.0	101.5	94.1	98.8	105.0	(2.0)
	16年	95.7	96.9	96.5	98.2	90.1	98.2	109.0	(2.0)
	17年	94.1	95.7	100.2	98.2	86.0	96.8	112.6	(2.0)
	18年	91.5	95.5	104.7	98.1	82.1	97.1	118.2	(2.0)

注1. 推移は平成14年を100とした比率、但し全国の出荷頭数欄は全国の出荷頭数に占める石垣市の比率。石垣市の子牛出荷頭数は八重山家畜市場の取引頭数

2. 全国の飼養頭数は千頭

て、「牛の体高測定器作成」、2月「繁殖管理表のつけ方と空胎期間の計算方法について」の内容で年3回実施し、またそれ以前には草地供用年数の長期化による収量低下圃場の増加を受け「収量減リスクの少ない草地更新技術や牧草奨励品種（トランスパーラ）について」や子牛用飼料として普及し始めた「TMRの給与技術について」、子牛購買者を講師とした「購買者のニーズに応えるための技術について」等、新技術のみならず基本的な技術についても取り上げ、技術の確認、修得、向上に取り組んでいる。また、家族の健康に関する課題についても学習対象としてきている。さらに、発表直後から農業改良普及センターの指導のもと月1回のパソコンを活用した簿記研修が行われており、希望者（7～8名）が受講し、経営管理力の向上を図っている。平成18年度からは自らの経営に役立っている独自のアイデアを披露するアイデアコンテストを開催し、部員相互研鑽による資質向上に取り組んでいる。

組織結成の契機となった視察研修は多数の部員の参加を考慮して隔年で島内視察と島外視察を実施することにしており、平成18年度は約35名の参加を得て島内3ヶ所の牧場を視察し、平成19年度は島外（伊江島）研修に18名が参加した。

また、平成18年は2月に青森県で開催された「モーモー母ちゃんの集い」に15名の部員が参加し、全国の牛飼い女性と意見を交換するといった幅広い交流活動を行っている。畜産女性組織との交流は機会をつくって積極的に取り組んでおり、調査当日も石垣島に視察研修に訪れたJA幕別町女性部と交流会を行うとのことであった。

女性の経営参画や地位向上の取り組みは、上記の女性部独自の活動に加え、八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会や石垣市女性ネットワーク会議の活動を通して推進している。特に、農山漁村女性の意識と行動を変え、女性の資質向上及び農林漁業の発展に寄与することを目的として組織された八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会は、家族経営協定の推進や行政に対する女性の役職登用の要請等に積極的に取り組んでいる。

以上のように経営発表以降も女性部は、飼養管理・草地管理等の肉用牛飼養に関わる技術及び経営管理に関する幅広い学習活動や他の女性組織との共同活動、交流等に積極的に

取り組み、部員の技術力・経営管理能力のレベルアップ、経営参画の促進を図って女性達が肉用牛経営の担い手として成長することに寄与するとともに、女性の地位向上や社会参画を支援している。

その結果、平成15年以降19年までに石垣市における家族協定締結農家は17戸を数え、うち13戸が畜産農家で占められている。また、平成18年現在石垣市の女性農業委員は24名中4名で、うち2名は部員が登用されている。さらに、石垣市では平成14年から18年の間に繁殖肉用牛飼養農家は8.5%減少しているが、その減少程度は全国平均の半分以下に抑えられており、1戸当たり飼養頭数は平成15年以降全国平均を10頭程度上回る41頭前後に達している。そして平成17年のデータではあるが、女性部員の1戸当たり平均飼養頭数は市平均を3頭上回り、部員の約1/4にあたる14戸が1千万円以上の子牛販売収入を実現している。また技術力向上に伴って、石垣市の子牛販売価格は全国平均との格差が縮小してきており、女性部発足当時8万円程度あった価格差は平成16、17年には約5万円にまで縮まっている（表2）。その中でも女性部員の場合は、部員の平均子牛販売価格が市平均を若干上回っており、全国平均との格差は市平均より更に縮小している。さらに、女性部員の出荷時における子牛の平均日増体量（DG）は市平均水準を上回り、全国平均水準に達している（表3）。

表2 販売子牛平均価格の比較 単位：千円

年次 (平成)	石垣市 平均	女性部 平均	全国 平均	価格差	
				石垣市－全国	女性部－全国
1	408	—	488	-80	—
2	399	—	475	-76	—
16	407	416	459	-52	-43
17	436	438	488	-52	-50

注1. 石垣市は八重山家畜市場平均

2. 「平成18年度南の島の普及活動」（八重山農政・農業改良普及センター）
P104を一部加工して作成

表3 出荷子牛の平均日増体量 単位：(kg/日)

年次	石垣市平均	女性部平均	全国平均
平成16	0.91	0.95	0.95
平成17	0.91	0.95	0.96

注1. 石垣市は八重山家畜市場平均

2. 「平成18年度南の島の普及活動」（八重山農政・農業改良普及センター）
P104より引用

2. むすび

平成元年当時の石垣島の繁殖肉用牛飼養技術は全国レベルに比較して立ち後れ、生産子牛はヤギ以下と揶揄される状況にあった。こうした中、先進地研修を契機に彼我の技術水準、経営への取り組み姿勢の格差を認識した女性達によって結成された女性部（婦人部）は、結成後20年弱の長期に渡り多様な学習活動を核とした組織活動に取り組み、技術力の向上のみならず、経営管理能力の向上、経営への参画を推進し、石垣島の繁殖肉用牛生産を支えてきている。こうした石垣島和牛改良組合女性部の活動は、女性達が夫・家族の補助的關係に止まるのではなく、技術力・経営管理能力を高め、夫・家族と対等の協力関係を形成し経営に参画することが、経営や産地の発展を促す重要な力となることを示す貴重な事例と言えよう。



調査にご協力下さった石垣島和牛改良組合女性部の皆さん



女性部長（発表会当時）の牛舎